

平成27年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	ニューヨーク市立大学大学院センター	職名	Ph.D. Candidate	助成金額	300,000円
氏名	柴田寛之 印	メールアドレス	skhm408gmail.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
移民のトランスナショナルな繋がり of 長期的変動: 日系ブラジル人の100年の歴史制度分析					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>本研究は、日系ブラジル人の100年に渡る歴史を三期区分し、彼らの日本とブラジルとの間のトランスナショナルな繋がり of あり方の変容を分析するものである。せせらぎ財団からの研究助成を受けて、全体の研究計画の中の第三期、すなわち1980年代中盤以降の日本への還流移民の時期の調査を行った。</p> <p>具体的には、2016年1月から同年6月にかけて、静岡県某市において、主に来日1.5世、2世を中心としたインタビュー調査を行った。中心となった調査課題は1.5世代および第2世代の教育と彼らのブラジルとの繋がり of あり方である。すなわち、大きく分けて日本の公立学校、ブラジル人学校という教育制度に関する選択肢があるなかで、教育制度のあり方がどのようにそれぞれの学校に通うブラジル人の若者たちに影響を与えているのか。また同時に、非正規化する労働市場(彼らの親たちの多くはそのような労働市場の中で働いている)は教育制度の選択、およびその後の将来計画にどのような影響を与えているのか。以上の問いに答えることを目指した。</p> <p>対象者のこれまでの生活史との関連で彼らの選択の理由、将来計画のあり方を検討するため、半構造化インタビューを採用し、対象者の指定した場所で1セッション1時間、複数回のインタビューを行った。ブラジル人学校高等学校相当課程に通う若者18人、日本の高校に通う若者8人、親世代のブラジル人13人、日本人関係者6人、全体で45人の対象者にインタビューを行った。助成金の全ては調査地における調査拠点の確保のための費用として使用した。</p> <p>調査成果の一部は、直近には以下の学会で報告予定である。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		

SHIBATA, Hiroyuki	Tentative Title: Learning to Labor or Depart: Impacts of ethnic schooling for the children of Nikkei Brazilian migrants in Japan	The 2017 Congress of Latin American Studies Association (https://convention2.allacademic.com/one/lasa/lasa17/index.php?cmd=Online+Program+View+Paper&selected_paper_id=1206524&PHPSESSID=1sqh2gp57loe5437n8gn502o03)	April 29th, 2017
-------------------	--	---	------------------

(管理番号 :)